

筑波大学体育センターにおける基礎体育の評価 —新カリキュラムはどのような成果をもたらしたのか—

向後佑香¹⁾, 坂本昭裕¹⁾, 大森 肇¹⁾, 秋山 央¹⁾

Course evaluation under the new curriculum at the Sport and Physical Education Center

Yuka KOGO¹⁾, Akihiro SAKAMOTO¹⁾, Hajime OHMORI¹⁾, Nakaba AKIYAMA¹⁾

Abstract

This study evaluates the courses under the new 2011 curriculum. Course evaluations were conducted in 2010 and 2011 under the old and new curriculums respectively. The participants in the evaluations were students taking freshman-level physical education courses, and the number of the participants was 2,104 and 1,972 in 2010 and 2011 respectively. The course evaluations were conducted at the end of each academic year. Additionally, the evaluations were conducted at the end of each term in 2011. The evaluation results revealed that the “educational effects” under the new curriculum are higher than those under the old curriculum. However, the scores for course “management and planning” and for “satisfaction” were lower for the new curriculum. Under the new curriculum, educational goals were set for three categories in each course. The evaluation results for these categories at each term end show that the educational effects were high overall. However, while only certain educational goals were easily met in some courses, all three goals were met in others. Students’ comments revealed some issues regarding the selection of sporting events and method of management.

Key words: physical education, course evaluation, new curriculum

1) 筑波大学体育系

1. はじめに

大学における学生による授業評価アンケート (course evaluation ; 以下授業評価) は、授業評価方法の一つである。今日、授業評価を実施している大学は、国公立を問わずほぼ100%に達しているといわれている (安岡, 2007)。このような授業評価を実施する目的は、授業改善であり、教育の有効性を高めることにある。関内 (2010) は、学生による授業評価は、教員による教育活動成果の評価 (総括的評価) の一資料になるとともに、授業実践の状況と課題を把握して授業改善につなげるための手段 (形成的評価) という二重の性格を本来的に持っていると述べている。また、澤田 (2010) においても、授業評価は、教員が自律的に自分自身の授業を振り返り、改善を志向する形成的評価 (formative evaluation) のための資料として用いるのであれば、きわめて有効な情報源となると述べている。学生による授業評価は、学期末に義務として受動的に行うのみではなく、自身の授業実践を次年度の授業に生かすための手段として活用することの大切さを指摘している。総括的評価あるいは、形成的評価のいずれにしても、得られた情報を生かして学生にとって有益な授業とはどのような授業であり、学習効果が得られる教授法とは何であり、そして学生は講義に何を求めているのかななどを明確にする (本城, 2011) ように授業改善に努めることが重要であろう。

実際には、授業改善といっても様々なレベルにおける改善が考えられる。例えば、個々の教員のレベルから、学部内のコースのレベル、大学全体のレベルまで様々であるが、上述の通り授業評価の目的としては、まずは個々の教員のレベルにおいて授業改善に活用することが挙げられる。次の段階として、個々の教員のレベルから、学部あるいは教育組織の教育成果を示すための評価対象としてカリキュラムのレベルが考えられる。学部や教育組織では、いくつもの

教員個々の授業科目によって学部やコースのカリキュラムが成り立っており、個々の評価を総合することでカリキュラム全体の評価も可能になる (大塚, 2010)。すなわち、授業評価がもたらすデータはカリキュラム全体を把握し、改善するための参考資料としても活用することができる。学生による授業評価の調査結果及びそれらの分析データの蓄積は、これまでのカリキュラムのどこに、どのような問題点があるのかについて比較検討するための重要な資料の一つになると思われる。

ところで、筑波大学体育センターでは、平成21年度より「知の競争時代における大学体育モデルの再構築に関する実践研究」(通称 SPERT プロジェクト) に取り組んできている。その中で、大学体育の新しいカリキュラム構築について検討が行われ、その結果平成23年度より新構想に基づくカリキュラム (以下新カリキュラム) を試行的に実施することとなった。新カリキュラムの特徴は次のような新たな理念と教育目標を打ち出したことにある。すなわち、理念としては「高等教育における身体的側面からの人間教育を担うべく、最新のスポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、『健やかな身体、豊かな心、逞しい精神』を育み、高潔な人間性と倫理観を養うとともに、自立的に自己を成長させ続ける力を持った学生を育成すべく、以下の5つの目標を掲げ、達成せんとするものである」が掲げられており、教育目標としては以下が挙げられている。

- 1) 健康・体力、スポーツ技術に関する基礎的知識、思考力、実践力の養成
- 2) 豊かな心・社会性の醸成
- 3) 逞しい精神・高い倫理観の育成
- 4) スポーツ文化の知的解釈力・鑑賞力の涵養
- 5) 自立的に自己を成長させ続ける力の涵養

この目標を実施するための改革案として、様々な取り組みが実施されつつあるが、以下の2つが最大の特徴として挙げられる。1つ目の特徴は、これまで曖昧であった1～4年生の体

育実技の違いを、基礎、応用、発展と階層化したことである。

また、もう1つの大きな特徴は、これまで通年で行ってきた1年生対象の体育の履修形態を変更した点である。この1年次の体育は「基礎体育」と呼ばれ、異なる学習目標を持つスポーツ種目を通じて総合的に基礎を学ぶことをねらいとしている。これまでの旧カリキュラムでは、単一のスポーツ種目について1年間を通して受講する形態だったのに対し、新カリキュラムでは1学期毎にスポーツ種目を変更し1年間で計3種目の実技を受講することになった。3種目の実技は、後述の通り異なる学習目標を持った3カテゴリーから選択される。1学期に下記のカテゴリーの中から1種目を選択し、さらに次の学期には異なるカテゴリーから1種目を選択し、1年間で3カテゴリーから3種目を履修するという形態である。3つのカテゴリーの目標は次の通りである。

①フィジカルリテラシー

・主に個人スポーツを教材として、健康・体力及び運動に関する理論と実践力等を養う。

②スポーツマインド

・主に集団スポーツを教材として、コミュニケーション力、リーダーシップ等を養う。

③スポーツスピリッツ

・主に対人スポーツを教材として、スポーツ精神や礼節、慈しみの態度等を養う。

このように1年次の基礎体育においては、学期毎のカテゴリー選択制を取り入れる事によって、学生が万遍なく身体とスポーツに関する基礎を学ぶことができるようにし、多種多様なスポーツによって教育目標を達成する事ができるように改編した。

そこで本研究では、新カリキュラム（平成23年度）の授業実践を旧カリキュラム（平成22年度）の授業実践と比較検討することにより、新カリキュラムにおける授業の成果や課題を明らかにし、今後の授業改善あるいはカリキュラムの改善に資することを目的とした。評

価の対象は新カリキュラムで大幅に授業を改編した1年生（基礎体育）とし、学生による授業評価（小田ら、2011）のデータを用いて分析した。

2. 方法

2.1. 調査対象

筑波大学体育センターにおいて平成22年4月～平成23年3月、平成23年4月～平成24年3月にかけて1年次基礎体育を受講した学生（H22：約2,104名、H23：1,972名）を対象として学生による授業評価を行った。なお、平成22年度は通年授業のため、1年間を通しての授業評価であるのに対し、平成23年度は1年間を通しての授業評価の他に、1～3学期終了時にも授業評価（単元評価）を実施している。そのうち回答がない者、授業科目や授業区分などの回答が不明な者を除き、平成22年度授業評価1,637名、平成23年度授業評価1,537名、平成23年度1学期単元評価1,631名、平成23年度2学期単元評価1,570名、平成23年度3学期単元評価1,545名を分析対象とした。

2.2. 調査用紙および手続き

調査用紙は、本プロジェクトの中で新カリキュラムを評価するため小田ら（2011）によって作成された、「学生による授業評価」及び「学生による単元評価」の調査用紙を用いた。質問項目は、A. 学生の出席状況と熱意（2項目）、B. 共通体育について（6項目）、C. 授業の運営と指導法（13項目）、D. 授業の効果（20項目）、E. 授業に対する満足度（1項目）、の計42項目で構成され、それぞれの質問項目について6段階評価で回答を得た。また調査用紙の最後に自由記述欄を設けた。なお、「単元評価」の調査用紙は、1学期毎の単元の評価を行う調査用紙のため、共通体育全般についての質問項目であるB項目は存在しないが、それ以外の項目は「授業評価」と同様に存在する。

表1 旧カリキュラムと新カリキュラムの授業評価得点の比較

		H22年度 授業評価	H23年度 授業評価	t 値
A. 学生の出席状況と熱意	M (SD) N	9.86 (1.88) 1637	10.19 (1.73) 1537	- 5.16 ***
B. 共通体育	M (SD) N	17.99 (3.42) 1627	18.45 (3.43) 1517	- 3.76 ***
C. 授業の運営と指導法	M (SD) N	68.54 (8.24) 1629	67.07 (8.90) 1509	4.77 ***
・ C1. 授業の計画運営	M (SD) N	35.72 (5.06) 1631	35.24 (5.24) 1519	2.63 **
・ C2. 授業の指導法	M (SD) N	32.81 (3.73) 1637	31.82 (4.18) 1527	7.03 ***
D. 授業の効果	M (SD) N	92.66 (16.99) 1601	95.75 (15.93) 1505	- 5.22 ***
・ D1. 基礎的知識や思考力	M (SD) N	19.34 (3.56) 1626	19.89 (3.25) 1530	- 4.51 ***
・ D2. 豊かな心と社会性	M (SD) N	18.63 (4.01) 1622	18.91 (3.56) 1527	- 2.08 *
・ D3. 逞しい精神, 倫理観	M (SD) N	17.55 (4.00) 1627	18.45 (3.82) 1524	- 6.47 ***
・ D4. スポーツ文化の解釈, 鑑賞力	M (SD) N	18.47 (3.97) 1627	19.21 (3.67) 1528	- 5.46 ***
・ D5. 自己成長力	M (SD) N	18.59 (3.95) 1625	19.16 (3.68) 1529	- 4.20 ***
E. 授業への満足度	M (SD) N	5.36 (0.83) 1616	5.23 (0.85) 1475	4.33 ***

*** p < .001 ** p < .01 * p < .05

から授業を実施することを明確にして受講させた。学生にとっては、ガイダンス、あるいは学期ごとの学習目標の明確化が「授業の効果」への評価を高めた理由として考えられる。

さらに新カリキュラムでは、「A. 学生の出席状況と熱意」も旧カリキュラムより高い評価となった。旧カリキュラムでは、1年間同じ教員による授業を受講するが、上述の通り新カリキュラムでは学期ごとに指導教員と履修するスポーツ種目が変わる。このことは、学生にとって新たな学習意欲、あるいは新しい教材への興味、関心を喚起することになっていたのでないかと推察する。以上のように、新カリキュラムの授業実践は、旧カリキュラムとの比較から見ると、体育センターが掲げる教育目標が概ね達成されていたと評価できるのではないだろうか。

しかしながら、新カリキュラムの方が旧カリキュラムに比較して評価が低かったカテゴリもあった。「C. 授業の運営と指導法」は、「C1. 授業の計画・運営」と「C2. 授業の指導法」の2つの下位カテゴリに分かれているが、まず「C1. 授業の計画と運営」について考察する。体育センターの通年の授業は、これまで1年間における授業計画(30回)で実施してきたが、新カリキュラムでは、1学期(10回)という授業回数で実施しなければならなかった。シラバスを作成し計画的に実施してみたものの、現実的には学生の到達度や進度を見ながら授業運営していた教員が多かったのではないだろうか。筆者らは屋外での授業を担当しているが、雨天等の天候による影響も含めシラバス通りには運営できなかったというのが実情である。次に、「C2. 授業の指導法」であるが、これも30回で

学習する方が授業内容、教員の専門性の有無、学生とのコミュニケーション等の質問項目についてより評価が高くなることは否めないのではないだろうか。このような理由から、授業の運営や指導法については、旧カリキュラムの方が高く評価されたと考えられる。

また「E. 授業への満足度」も同様に旧カリキュラムの方が高く評価されていた。これは、上記のような授業運営・指導法への評価との関連や、後述する自由記述にもあるような、「1年間で1種目をやりたい」、「通年が良かった」、「もっと〇〇の授業をやりたい」という1つの種目を深めたいという学生の希望、また、「第1希望の種目が取れなかった」、「選択できる科目を増やしてほしい」という種目選択に対する要望などが反映されていると考えられる。

このように、新カリキュラムと旧カリキュラムにおける比較では、教育効果としては、新カリキュラムの方が高く評価され、授業の運営・指導法、満足感においては旧カリキュラムの方が高く評価されていた。したがって、今後のカリキュラム改善においては、授業の運営・指導法の見直しや、学生の要望に沿えるような種目選択のあり方を検討していくことが課題として挙げられる。

(2) 学期別単元評価の結果

新カリキュラム（平成23年度）の授業実践の評価について、学期ごとの授業を評価するために、平成23年度1～3学期毎の単元評価の平均点及び標準偏差を算出し、平成22年度授業評価の得点と比較を行った（表2）。

分散分析の結果、「A. 学生の出席状況と熱意」において有意差が認められ（ $F(3,6365) = 82.27, p < .001$ ）、多重比較の結果、1学期と2学期で3学期及び平成22年度よりも高い得点となった。「C. 授業の運営と指導法」では、1学期がその他の学期よりも有意に高く、3学期が最も低い得点となった（ $F(3,6207) = 14.51, p < .001$ ）。同様に「C1. 計画運営」、「C2. 指導

法」、「E. 授業への満足度」についても有意差が認められ（ $C1: F(3,6230) = 10.64, p < .001$, $C2: F(3,6354) = 17.98, p < .001$, $E: F(3,6250) = 17.75, p < .001$ ）、3学期がその他の学期及び平成22年度よりも低い得点であった。

一方「D. 教育効果」及び、その下位項目である「D1. 基礎的知識や思考力」、「D3. 正しい精神・倫理観」、「D4. スポーツ文化の解釈鑑賞力」、「D5. 自己成長」においては、平成22年度よりも全学期を通して有意に高くなり（ $D: F(3,6239) = 9.37, p < .001$, $D1: F(3,6326) = 10.53, p < .001$, $D3: F(3,6321) = 10.96, p < .001$, $D4: F(3,6330) = 6.07, p < .001$, $D5: F(3,6328) = 9.97, p < .001$ ）、「D2. 豊かな心と社会性」では1学期において平成22年度及び3学期よりも有意に高い結果となった（ $F(3,6317) = 5.37, p < .01$ ）。まず、「D. 教育効果」及びその下位項目について、旧カリキュラムよりも新カリキュラムの方が全ての学期において得点が向上する結果となった。これは授業評価の結果と同様に、新たな教育目標に沿ってカリキュラムを編成し直したことが大きな要因であると考えられる。体育センターとしての教育目標を明確に提示し、それに従って各教員が授業に取り組むことで教育効果の向上につながったと推察する。

一方、「A. 学生の出席状況と熱意」、「C. 授業の運営と指導法」、「E. 授業への満足度」の項目については、3学期に得点が低下してしまっていた。今回の調査では得点に影響する要因を質問用紙で把握できるものではないため強く言及はできないが、3学期は冬季の活動環境となり気候の条件が良くないことや、入試、修士論文の審査等の教員側の休講、あるいは学生自身の欠席が多くなるなど学習意欲や授業運営にマイナスとなる要因が評価に示されたものと推察される。しかしながら、「E. 授業への満足度」では得点だけをみると1～3学期の平均点がそれぞれ5点を超えており、満足度に対しては高い評価を示していることも付言しておきたい。

表2 単元評価の比較

		H22年度全体	1学期	2学期	3学期	F
A. 学生の出席状況と熱意	M (SD)	9.87 (1.88)	10.73 (1.48)	10.41 (1.67)	10.02 (1.82)	82.26 ***
	N	1623	1631	1570	1545	
C. 授業の運営と指導法	M (SD)	68.58 (8.21)	69.53 (7.64)	68.73 (8.43)	67.56 (9.00)	14.50 ***
	N	1615	1562	1523	1511	
・C1. 授業の計画運営	M (SD)	35.75 (5.05)	36.37 (4.76)	36.04 (5.07)	35.39 (5.29)	10.63 ***
	N	1617	1571	1527	1519	
・C2. 授業の指導法	M (SD)	32.83 (3.71)	33.14 (3.41)	32.70 (3.80)	32.17 (4.19)	17.98 ***
	N	1623	1625	1569	1541	
D. 授業の効果	M (SD)	92.69 (17.00)	95.58 (16.37)	95.16 (16.70)	94.39 (16.37)	9.36 ***
	N	1588	1580	1555	1520	
・D1. 基礎的知識や思考力	M (SD)	19.35 (3.56)	19.99 (3.33)	19.85 (3.38)	19.68 (3.34)	10.52 ***
	N	1612	1612	1566	1540	
・D2. 豊かな心と社会性	M (SD)	18.64 (4.01)	19.10 (3.77)	18.85 (3.92)	18.61 (3.75)	5.36 ***
	N	1608	1607	1566	1540	
・D3. 逞しい精神、倫理観	M (SD)	17.54 (4.00)	18.21 (3.90)	18.23 (4.11)	18.15 (3.87)	10.95 ***
	N	1613	1609	1566	1537	
・D4. スポーツ文化の解釈、鑑賞力	M (SD)	18.47 (3.97)	18.95 (4.01)	18.98 (3.89)	18.91 (3.78)	6.06 **
	N	1614	1612	1570	1538	
・D5. 自己成長力	M (SD)	18.59 (3.95)	19.20 (3.84)	19.25 (3.76)	18.98 (3.84)	9.96 ***
	N	1612	1612	1567	1541	
E. 授業への満足度	M (SD)	5.37 (0.83)	5.45 (0.79)	5.37 (0.83)	5.23 (0.90)	17.75 ***
	N	1602	1596	1562	1494	

*** p < .001 ** p < .01

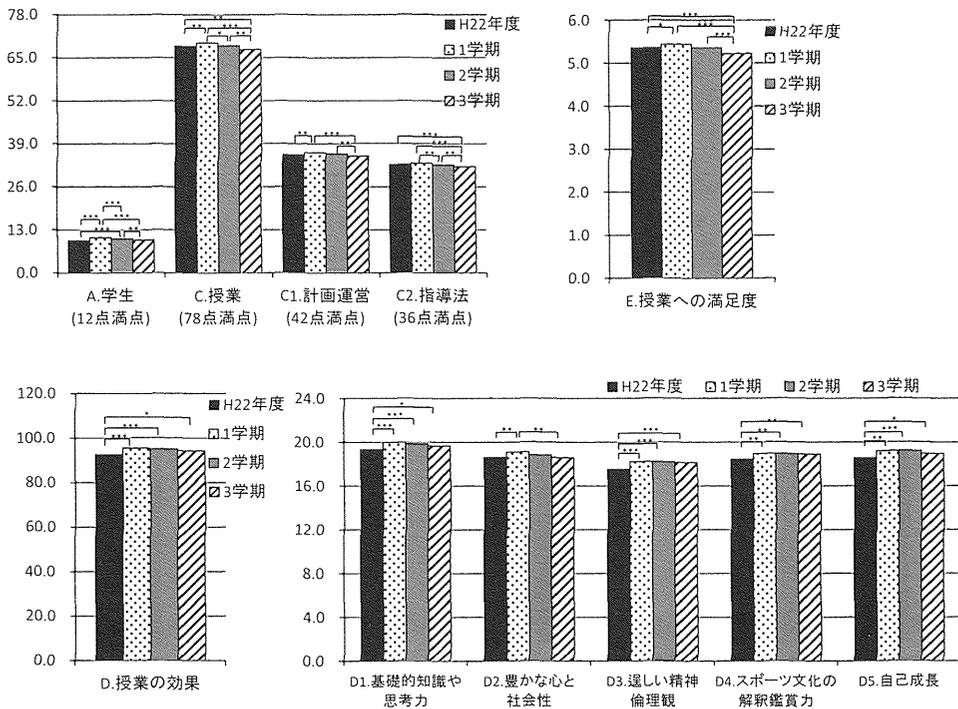


図1 単元評価の比較 (多重比較の結果)

今回の結果を踏まえ、3学期に得点が低下する要因については今後さらに検討していく必要があると思われる。

(3) カテゴリーと教育効果の比較

【フィジカルリテラシー】、【スポーツマインド】、【スポーツスピリッツ】それぞれのカテゴリーにおいて、教育目標をどれだけ達成できているのかを明らかにするため、質問項目ごとにカテゴリー別の得点を算出した。これら3つのカテゴリーは5つの教育目標の中でも、【フィジカルリテラシー】＝「D1. 基礎的知識や思考力の養成」、【スポーツマインド】＝「D2. 豊かな心と社会性の醸成」、【スポーツスピリッツ】＝「D3. 逞しい精神・倫理観の育成」、という下位項目に概ね対応している。これら3つのカテゴリーがねらいとしているD1～D3の項目に対し、カテゴリー毎の得点を算出し、1元配置分散分析を行った。なお、H22年度はカテゴリー別の授業は実際には行われていないが、比

較対象とするため、H23年度の分類と同様にH22年度の種目をカテゴリー別に分類しカテゴリー別得点を算出した。

その結果、「D1. 基礎的知識や思考力の養成」に関する項目では、得点にカテゴリー間の差異は認められなかった ($F(3,5194) = 1.88, p = .131$)。「D2. 豊かな心と社会性の醸成」に関する項目では、カテゴリー間に有意な差が認められ ($F(3,5286) = 170.72, p < .001$)、【スポーツマインド】が他のカテゴリーよりも有意に高い結果となった。同様に、「D3. 逞しい精神・倫理観の育成」に関する項目でもカテゴリー間に有意な差が認められ ($F(3,5166) = 91.68, p < .001$)、【スポーツマインド】が最も高く、次いで【スポーツスピリッツ】が高いという結果を示した。

「D1. 基礎的知識や思考力の獲得」に関しては、いずれのカテゴリーにおいても得点に差異は見られなかった。どのカテゴリーにおいても平均点が20点と非常に高くなっており、全て

表3 カテゴリー別教育効果の得点

		H22年度 カテゴリー別	フィジカル	マインド	スピリッツ	F
D1. 基礎的 知識や思考力	M (SD)	19.74 (3.41)	19.87 (3.17)	19.97 (3.37)	19.70 (3.50)	1.88 n.s.
	N	480	1661	1473	1584	
D2. 豊かな 心と社会性	M (SD)	20.33 (3.44)	17.60 (3.93)	20.29 (3.28)	18.84 (3.70)	170.72 ***
	N	577	1654	1477	1582	
D3. 逞しい 精神、倫理観	M (SD)	17.12 (3.70)	17.05 (4.09)	19.11 (3.69)	18.54 (3.78)	91.68 ***
	N	458	1655	1478	1579	

*** $p < .001$

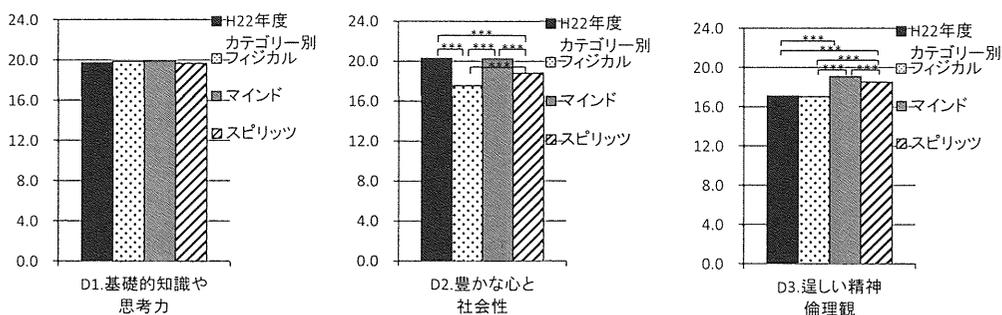


図2 カテゴリー別教育効果の得点 (多重比較の結果)

のカテゴリーにおいて概ね教育目標を達成していたと考えられる。当初、【フィジカルリテラシー】カテゴリーにおいて、その他のカテゴリーよりも得点が向上すると予測していたが、このようにカテゴリー間で差異がないことから、健康・体力およびスポーツ技術に関する基礎的知識や思考力については、特定の授業から学ぶというよりは、いずれのカテゴリーの授業においても学習者が学んでいる事が伺える。「D2.豊かな心と社会性の醸成」という項目では【スポーツマインド】の得点が他のカテゴリーよりも高い結果であった。これは主に集団スポーツを教材とした授業が多く含まれるカテゴリーであるため、授業の中での仲間と関わりやチームプレー等の授業特性が教育目標を学ぶためにも有効であったと推察する。一方「D3.逞しい精神・倫理観の育成」に関しては、【スポーツマインド】で最も高く、次いで【スポーツスピリッツ】が高くなる結果となった。これは質問項目の中に「マナーや礼節が身に付いた」、「他者を尊重できるようになった」という項目があるように、集団スポーツを通じてスポーツマンシップなど類似した側面を学ぶことができたためと考えられる。

これらの事からも、各カテゴリーにおいて学習目標として設定されているものは、そのカテゴリーにおいて特に学習しやすい内容と、他のカテゴリーにおいても同様に学習できる内容があることが明らかになった。1年間を通して3カテゴリー全てを受講することで、互いに補完し合ってより総合的な教育効果を上げることができると考えられる。同じ体育の教材であっても、その特性から学びやすいものと、そうでないものがあることは当然であろう。今後このようなカリキュラムを運営する上では、教材の持つ特性を生かしたカテゴリーへの割り振りと同時に、教員が担当するカテゴリーの教育目標を十分に理解した上で教材研究を進めることが必要となるであろう。

(4) 自由記述

最後に、平成23年度授業評価及び学期ごとの単元評価の授業に対する自由記述内容を集計し、図3に示した。1学期には『通年でやりたい』という意見が44.1%と最も多く見られたが、2学期以降は徐々にその割合は少なくなっていった。一方『楽しかった』という意見が50%近くに増加しており、当初、自分がやりたい種目を1年通じてできないことへの不満を持っている学生も、徐々に満足感を得られるようになっていったのではないかと推察する。

記述内容を見ると、「学期ごとに種目が変わってあきなかった。(1年次・社工・男性)」、「学期ごとに様々な競技ができて楽しかった。(1年次・社工・男性)」等の肯定的な意見と、「短かすぎて何しているかも中途半端だった。(1年次・資源・女性)」、「学期ごとに種目を変えると、慣れてきた時に終わってしまう(1年次・地球・男性)」という両方の意見が混在しており、1学期間という短期間で運動へ取り組むことのメリット及びデメリットが見受けられた。また、次いで多かったのが、「学類によって受けられない科目がないようにしてほしい(1年次・情メ・男性)」、「選択できる競技の種類に不満を感じた。(1年次・知識・男性)」、「希望する科目が選択できるよう配慮してほしい(1年次・医療・男性)」等の『選択できる種目』についての記述で、1～3学期を通して常に記載されている内容であった。学生が体育授業に意欲的に取り組めるようにするためにも、種目選択の方法や抽選方法など、改めて今後の対策を考える必要がある事を示唆する内容であった。

4. まとめ

本研究では、筑波大学体育センターにおいて平成23年度より試行された新カリキュラムの1年生を対象にした授業(基礎体育)の評価を行うために、平成22年度の旧カリキュラム

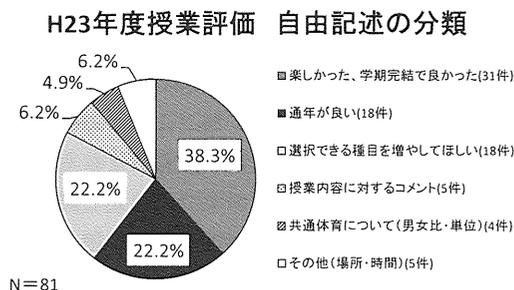
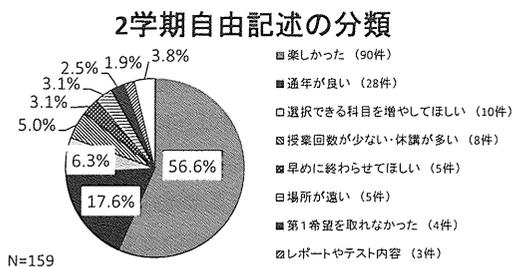
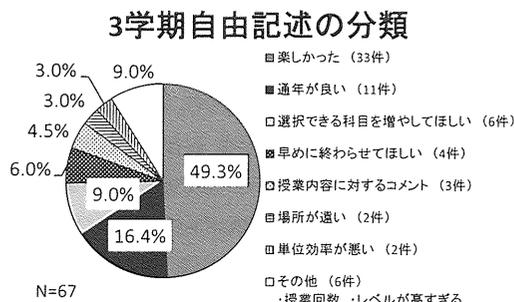
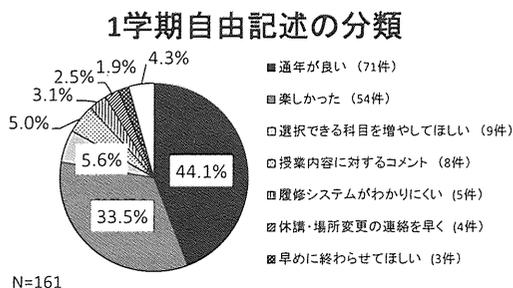


図3 自由記述の分類

の1年生の授業の評価と比較し、新カリキュラムの成果及び課題を明らかにすることが目的であった。その結果、新カリキュラムにおける学期完結の3カテゴリ一制は、旧カリキュラムよりも教育効果が高く評価されており、教育目標を達成するために有効なカリキュラムであったことが明らかとなった。しかしながら、旧カリキュラムにおける通年実技授業のほうが高く評価される面もあり、今後このような課題を検討する必要があることが明らかになった。

また、各カテゴリにおいて教育目標として設定されている内容は、概ね達成されており、1年間を通して3カテゴリを受講することで、互いに補完し合ってより総合的な教育効果を上げることができる事も示唆された。

一方で、学期完結という短い期間の中では評価が高まらない項目もあった。学期完結という形態のメリット・デメリット、そして今回明らかとなった課題を今後さらに検討し、次年度以降の「1年次基礎体育」及び「2年次応用体育」に活かしていくことが必要である。

特に今回課題として挙がっていた、「種目選

択」に関する内容や、授業の運営・指導方法について、学生の声をよく把握した上で対策方法を模索し、次年度以降の授業にしっかりと活かしていくことが必要不可欠であると考えられる。

付記

本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)(議題番号21240060)の一部である。調査にご協力いただいた各先生方には厚く御礼申し上げます。

文献

- 本城由美子：大学における授業評価と満足度との関係構造の分析。研究論集，93，105-117，2011。
- 小田梓，大森肇，坂本昭裕，小俣幸嗣，平山素子：新カリキュラムに対応した学生による授業評価作成の試み。大学体育研究，33，93-100，2011。
- 大塚雄作：授業評価の読み方・使い方－学問

- 学習共同体における実践的妥当化のすすめ - 学生による授業評価の現在. 東北大学高等教育開発センター編, 37-64, 2010.
- 坂本昭裕, 小田梓, 門野洋介, 武田剛, 大森肇, 小俣幸嗣, 山田幸雄, 本間三和子, 平山素子, 安藤真太郎, 鍋山隆弘: 筑波大学体育センターにおけるカリキュラム評価のグランドデザイン - 授業評価を軸としたカリキュラム改善の提案 -. 大学体育研究, 33, 83-91, 2011.
- 澤田忠幸: 学生による授業評価の課題と展望. 愛媛県立医療技術大学紀要, 7, 13-19, 2010.
- 関内隆: はじめに. 学生による授業評価の現在. 東北大学高等教育開発センター編, 東北大学出版会, 37-64, 2010.
- 田中統治, 根津朋実: カリキュラム評価入門. 勁草書房, 2009.
- 谷川聡, 福田崇, 鍋倉賢治, 遠藤卓郎, 武田剛: 平成23年度カリキュラムの構築. 大学体育研究, 33, 75-77, 2011.
- 安岡高志: 学生による授業評価の進展を探る. 京都大学高等教育研究, 13, 73-87, 2007.

共通科目「体育」の授業に関する調査

筑波大学体育センター

□調査の趣旨
 1. この調査は、共通体育の授業を一層充実させることを目的として、体育センターが実施するものです。
 2. 記入にあたっては、今年度受講した授業科目全体を統合して、個人の責任と判断で回答して下さい。
 3. この調査が、あなたの成績に影響することは絶対にありません。

□記入の方法
 1. 質問項目のすべてについて、それぞれ該当するもの一つを選び、数字を○で囲んで下さい。
 2.は自由記述欄です。

1. 曜・時期 (または授業中) 教員の指示するコード番号で答え下さい
2. 担当教員 教員の指示するコード番号で答え下さい
3. 授業科目名 希望の科目? 第1希望 -- 1 第1希望以外 -- 2
5. 学類 (専門学群) 6. 学年 7. 性別 男性 -- 1 女性 -- 2

A1. 学類・専門学群コード数

1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

A2. 学類コード数

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

H17以前に存在した学類

5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3. 3年 4. 4年以上 5. 大学院

A. あなた自身について

とても	++	+	-	---	まったく	
1. 授業への出席状況がよかった。	6	5	4	3	2	1
2. 熱意ある態度で授業に取り組んだ。	6	5	4	3	2	1

B. 共通体育全般について

とても	++	+	-	---	まったく	
1. 科目選択のやりエリエンション (履修の説明) は役に立った。	6	5	4	3	2	1
2. 開設科目の種類・数は適切であった。	6	5	4	3	2	1
3. 科目選択の方法は適切であった。	6	5	4	3	2	1
4. 今年度の体力測定 (体脂肪率、陸上競技等) は役に立った。	6	5	4	3	2	1
5. 今年度の全体履修 (1年次1学期、2年次1学期および3学期、3・4年次1学期) は役に立った。	6	5	4	3	2	1
6. 「科目選択補充制度」は必要である。	6	5	4	3	2	1

※1. 「体脂肪率測定」および「陸上の体力測定」は、今年度の体育実習が10月10日(月)の夜間授業であることをめぐり、今年度には、本年度1学期の目的と効果別に選択でも実施を希望するも限られています。

C. 授業の運営や指導法について

とても	++	+	-	---	まったく	
○ 授業の計画や運営について						
1. 学習目標が明確に示されていた。	6	5	4	3	2	1
2. 授業は学生の関心にあったものであった。	6	5	4	3	2	1
3. 授業に計画性が見られた。(シラバスを含めて)	6	5	4	3	2	1
4. 授業でとりあげるテーマ内容は精選され、適切であった。	6	5	4	3	2	1
5. 授業の流れ・時間配分が適切であった。	6	5	4	3	2	1
6. 成績の評価法は公平かつ公正であった。	6	5	4	3	2	1
7. 施設や用具は適切であった。	6	5	4	3	2	1

○ 授業の指導法について

とても	++	+	-	---	まったく	
8. 教員は授業に関わる十分な知識と高度な専門性を備えていた。	6	5	4	3	2	1
9. 教員は内容を理解しやすく教えた。	6	5	4	3	2	1
10. 教員の授業運営に工夫が感じられた。	6	5	4	3	2	1
11. 教員は熱意を持って授業に取り組んだ。	6	5	4	3	2	1
12. 教員と学生とのコミュニケーションがあった。	6	5	4	3	2	1
13. 学生の体力や技術レベル、理解の程度をいつも考慮して授業が進められた。	6	5	4	3	2	1

→ 裏面に続く

D. 授業の効果について

	とても +++	++	+	-	まったく ---	
1. 健康・体力の維持増進に役立った。	6	5	4	3	2	1
2. 健康・体力に関する知識や方法を理解した。	6	5	4	3	2	1
3. スポーツ・運動の技能向上に役立った。	6	5	4	3	2	1
4. スポーツ・運動の知識や方法を理解した。	6	5	4	3	2	1
5. 学生同士のコミュニケーションがなれた。	6	5	4	3	2	1
6. 新しい人間関係ができた。	6	5	4	3	2	1
7. リーダーシップや協調性が身についた。	6	5	4	3	2	1
8. スポーツ・運動をすることにより、爽快感や喜びが得られた。	6	5	4	3	2	1
9. 問題解決能力が身についた。	6	5	4	3	2	1
10. 新しい環境に取り組み姿勢が身についた。	6	5	4	3	2	1
11. 他者を尊重できるようになった。	6	5	4	3	2	1
12. マナーや礼節を身につけることができた。	6	5	4	3	2	1
13. 生涯にわたってスポーツ・運動を実践する必要性を感じた。	6	5	4	3	2	1
14. スポーツ・運動を見る目が養われた。	6	5	4	3	2	1
15. スポーツ・運動を支援していく価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
16. スポーツ・運動の文化的・芸術的価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
17. 現代社会におけるスポーツ・運動の意義・価値を理解した。	6	5	4	3	2	1
18. スポーツ・運動を職業や社会との関わりの中で捉える力が養われた。	6	5	4	3	2	1
19. 自己と向き合い、高めしていく力が身についた。	6	5	4	3	2	1
20. 物事を意欲的に実践する力が身についた。	6	5	4	3	2	1

E. 総合的な観点から

	とても +++	++	+	-	まったく ---	
1. 総合的に評価して、私が受けた体育の授業に満足している。	6	5	4	3	2	1

F. 各科目独自の質問

○以下の欄には授業の運営や指導法について、各教員が任意で項目を満足してください。

1.	6	5	4	3	2	1
2.	6	5	4	3	2	1
3.	6	5	4	3	2	1

○以下の欄には授業の効果について、各教員が任意で項目を満足してください。

4.	6	5	4	3	2	1
5.	6	5	4	3	2	1
6.	6	5	4	3	2	1

○共通評価にかかわる希望や意見などがありましたら、自由に書いて下さい。

本授業の回収方法
 ・授業時間内に記入
 ・その後、担任者（学生）が袋に封をして、各員の郵便用紙を体育センター事務室に届けて下さい。
 体育センターのスタッフ（准研究員等）がいる場合は、そのスタッフに封をした袋を預けても結構です。